



のぼりべつ 社協 だより

noboribetsu shakyo



特集「あえる STATION」でひとりの暮らしを応援！ 地域拠点丸ごと支え合い事業

登別小学校4年生を対象に、福祉や障がいについて交流と体験を交えて学びを深める「出前福祉講座」を行いました。
講師の視力障がいがある方の使う音声パソコンに、子どもたちは興味津々でした。

CONTENTS

- P 2-3 特集「あえる STATION」でひとりの暮らしを応援！
地域拠点丸ごと支え合い事業
- P 4-5 歳末たすけあい運動が始まります
- P 6-7 きずなかわら版
- P 8 きずなで紡ぐ「小地域ネットワーク」
もしもの時に安心！鍵預かりサービス事業



2017
11.01 No. 133

[発行] 社会福祉法人 登別市社会福祉協議会
[事務局] 登別市片倉町6-9-1 登別市総合福祉センターしんた21内
[TEL] 0143-88-0860
[FAX] 0143-88-4546
[mail] info@kizuna-shakyo.jp
[HP] http://kizuna-shakyo.jp/
[Facebook] https://www.facebook.com/kizunashakyo/



この社協だよりの発行は、赤い羽根共同募金の支援を受けています

特集

「あえるSTATION」でひとりの暮らしを応援！ 地域拠点丸ごと支え合い事業

あえるSTATIONがオープンして、4ヶ月が経ちました。登別市社協では、地域で暮らす高齢者等の「居場所づくり」と「買い物支援」を一体的に行う「地域拠点丸ごと支え合い事業」を実施しています。今回の特集では、取り組みのねらいや背景、運営スタッフの活動に対する想い、利用会員さんの声などをお伝えします！

ひとりの暮らしを地域全体で支えるために

今、地域を問わず住民同士が支え合うことのできる仕組みづくりや、関係機関等と連携した買い物支援、福祉活動の拠点づくりがこれからの地域福祉を進めるうえで必要とされています。この事業は、普段の外出に不便を感じている高齢者等が、地域で安心して暮らし続けることを目的に実施しています。

昨年度、幌別東小学校区を対象に実施した「移動支援サービスモデル事業」では、利用会員の自宅から商業施設までの無料送迎を、地域住民主体のもと行いました。

利用会員からは「毎週楽しみにしている」「日頃家に1人であるため、車内で会話ができて嬉しい」などといった声が聞かれ、この結果を踏まえ、今年度より買い物支援に加え、介護予防や交流といった機能を併せ持つ新たな支え合いの仕組みとして「地域拠点丸ごと支え合い事業」をスタートしました。

地域の力を結集させて

地域の福祉課題の解決は、地域住民のみならず、企業や関係団体等が互いに関わりあいが進めていくことが重要です。また、第3期登別市地域福祉実践計画「きずな」の策定時に実施したアンケート調査では、福祉活動を行ううえで拠点の設置が必要であるとの結果が明らかになりました。

そこで、今回、協同組合登別中央ショッピングセンターアーニスと協定を締結することにより、アーニス2階の一部を無償提供いただき、この事業を行う地域福祉の拠点「あえるSTATION」を設置しました。

「あえるSTATION」には、「誰かに逢える」「支え合える」「様々な活動を和える」「物を得る」といった意味が込められており、様々な支援を一体的に行うことができる地域の福祉拠点です。

また、きずな推進委員や民生委員・児童委員、地域包括支援センターや商店会等による運営委員会を立ち上



▲6月9日に協定を締結しました

取り組みの内容

げ、地域住民や関係機関の多様な意見を取り入れながら事業を進めています。

事業の内容は、自宅からアーニスまでの無料送迎を行い、運営スタッフと一緒に介護予防体操をしたり、お茶を飲んだりしたあと、帰りにお買い物をして帰ることができるよう仕組みとしており、現在は幌別東小学校区にお住まいの75歳以上のひとり暮らしの方などを対象に事業を実施しています。また、月に1回のお食事会も併せて実施することにより、食を通じたつながりづくりである「共食」の取り組みも行っています。

拠点の運営や送迎などを行う運営スタッフ（ボランティア）は市内全域から募っており、活動回数に応じてアーニス内で使用できるサービスチケットを還元する「ボランティアポイント」の仕組みを導入しています。

利用会員は、月3千円の利用料（送迎無料、お食事代込み）により毎週火曜日から金曜日の午前中のどちらかで月に4回ご利用いただくことができます。



▲1人ではなかなか取り組むことの難しい体操も継続することができます

1日の流れ

| | | |
|-----|---|---|
| お迎え | 利用会員さんのご自宅まで運営スタッフが車で迎えに行きます。 10時頃に「あえるSTATION」に到着します。 | |
| 内 容 | 茶話会 | 到着後、お茶を飲み、談笑しながら一休みします。 ご希望に応じて、福祉の相談や困りごとの相談等もお受けします。 |
| | 介護予防体操健康づくり | 運営スタッフと一緒に介護予防体操や脳トレなどをして、30分ほど身体を動かします。 |
| | 買い物 | ご自由にお買い物ができます。 ご希望に応じて、運営スタッフが付き添い、商品選びや荷物運びをお手伝いします。 |
| お送り | 12時（お食事会の日は13時頃）をめに、ご自宅まで運営スタッフが車でお送りします。 | |

■和やかな雰囲気でお互いに楽しい時間を

運営スタッフ

黒石 八重子さん



2年前に退職するまで、長く医療関係の仕事をしてきたので、これまでの自分の経験を地域のために活かせればと思い、地域活動に参加するようにになりました。この「あえるSTATION」での活動は、予定の空いている金曜日にお手伝いしています。毎週顔なじみの利用会員さんに会えるので、私自身が元気をもらえる時間です。活動回数を重ねるごとに、場の雰囲気も和やかになってきたと感じています。

活動をする上で大切にしたいと思っていることは、「利用会員さんに楽しい時間を過ごして

もらう」ということです。皆さんおひとり暮らしで、普段は1人で過ごす時間が多いようなので、週に1回ここへ来ていただいている数時間だけでも、他の利用会員さんや運営スタッフと一緒に、楽しくおしゃべりや体操、お買い物をして、笑顔になれる時間を過ごしていただければと思っています。

活動をしていて嬉しく感じたことは、活動をお休みした次の週に利用会員さんにお会いした際、私がいることを喜んでいただけたことです。いつも決まった方とお顔をあわせるので、仲が深まっていくことも楽しさの1つです。

始まったばかりの活動なので、まだ「あえるSTATION」を知らないという方も地域に多いかと思えます。これから広く知っていただき、将来的には地域のいろいろな方が集えるような場になっていけばと願っています。

■ご利用されているみなさんの声

●ひとり暮らしも長く、年もとってきてなかなか買い物や外出する機会が少ないので、家にずっといることが多く、寂しさを感じていました。

●町内会長さんがこの事業の案内を持ってきてくれ、外出する機会が増えればと申込をしました。

●普段デイサービスにも通っていないの



で、いろんな人がいる空間になじめるのかと不安もありましたが、運営スタッフさんがいつも笑顔で出迎えてくれ、いつの間にか心地よい場所となっていました。

●毎回行う体操は、だんだんと体も慣れてきて、良い習慣になっています。自宅でもできるものもあるので、1人で行っている時もあります。

●買い物も定期的に行くことができるようになり、とても助かっています。重い荷物は運営スタッフさんが運ぶのを手伝ってくれるので、楽になりました。

●1人で買い物に行くことの大変さや移動手段のことを考えると、会費は決して高いとは感じません。

●いつも和気あいあいとしており、毎回参加することを心から楽しみにしています。

■誰でも気軽に立ち寄れる地域の拠点に

現在は1校区の地域住民を対象としています。が、今後は他の校区にも対象を広げていくことができるよう検討しています。

また、誰でも立ち寄ることができ、地域住民同士がふれあい、福祉の情報を得られる拠点を目指して運営していきます。

運営スタッフ、利用会員は随時募集しております。

見学や体験も可能ですので、詳しくは地域福祉課（88-0860）にお問合せください！



歳末たすけあい運動が始まります

運動期間 12月1日～12月31日まで

目標額 550万円



第54回のほりべつ地獄まつりでのイベント募金の様子

募金になぜ目標額があるの？

共同募金は、法律（社会福祉法）に位置付けられた民間の募金活動で、事前に使いみちや集める額（目標）を定めた募金です。

このまちの地域福祉活動を充実させるために計画を立て、目標額の協力を市民の皆さんにお願いしています。

歳末たすけあい運動とは？

「歳末たすけあい運動」は、毎年12月に共同募金運動の一環として、地域住民やボランティア、民生委員・児童委員、社会福祉施設、社会福祉協議会等の関係機関・団体の協力のもと、新たな年を迎える時期に、支援を必要としている人たちが安心して暮らすことができるよう、様々な福祉活動を重点的に展開する運動です。

期間中に皆様からお寄せいただく募金は、すべて登別の福祉活動に活用されます。

募金を使った福祉活動

■歳末見舞金贈呈・118万6千円

経済的支援が必要な世帯等へ見舞金を贈る取り組み

■きずなのまちづくり助成・50万円

きずなの趣旨に賛同し福祉活動を実施する団体等への助成

■ふれあい会食会・116万5千円

町内会と高齢者等とのつながりを深める取り組み

■ふれあい・いきいきサロン・90万円

高齢者等の生きがいと居場所づくりを進める取り組み

■小地域ネットワーク活動・90万円

町内会による見守り・支え合い活動を広げる取り組み

■地域の支えあいづくり創出・40万4千円

地域の協力のもと、移動・買物支援を行う取り組み

■在宅介護支援・5万円

制度を利用できない人へ車いすや福祉用具の貸出を行う取り組み

募金方法

登別市共同募金委員会では、町内会のご協力のもと各世帯に歳末たすけあい運動の啓発チラシと募金用封筒を配布して協力の呼びかけを行います。11月中旬以降にご案内いたしますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

募金納入は、町内会で取りまとめの上、12月26日（火）までをお願いいたします。



赤い羽根でつながるやさしさの輪

「登別ならではの取り組みを始めてみませんか？」

共同募金運動は、じぶんの地域をより良くする取り組みで、活動への参加や寄付を通じて応援していく民間の運動です。

活動への参加方法もさまざまで、子どもから大人まで、個人・企業・団体等「みなさんのできるカタチ」で一緒にこのまちを想い、やさしさの輪を広げてみませんか？

道内プロスポーツチームにも、北海道の福祉活動推進への貢献を目的に運動を応援してくれるサポーターがいます。

その登別版サポーターとして「登別市少年軟式野球連盟」の皆さんが協力してくれています。市内の大会で横断幕を掲げてくれました！



ポスター掲示でPR!

施設・企業・事業所・商店等にポスターやのぼり旗の広報掲示をする取り組みです。共同募金運動を広く市民に広報啓発するため、ポスター一枚から始められる協力のカタチです。



PICK UP! 登別オリジナル寄付金付き商品の開発!

地域の資源とコラボした、寄付金付き商品の開発や特典付き商品の製作等を行う取り組みです。

今年度は、ふれあいフェスティバル2017のぼりべつのイベント募金ブースにおいて、「はまわしの会」の皆様が育てたお花を寄付金付き商品としてご提供いただきました。法人や企業が製作している商品とのコラボや、手作りの品物を寄付金付き商品にすることもできますので、お気軽にご相談ください。



イベント募金でPR!

市内で開催されるイベントや法人・企業・団体・町内会等の催し物の際に募金箱の設置や共同募金限定の啓発グッズ（ポスター、のぼり旗、風船、バッジ等）を活用して運動の呼びかけとPRを行う取り組みです。一緒に楽しみながら身近に始めることのできる、参加型の新たな募金のカタチです。



胆振地区少年軟式野球大会でのイベント募金の様子

寄付金付き記念バッジ取扱い中!

登別市限定の寄付金付き記念バッジを取扱い中です。今年度は登別市のPRキャラクター登夢くんが、地獄の谷の鬼火花を打ち上げている様子を表現しました。

ご希望の方は登別市社会福祉協議会窓口、もしくは、登別市役所母子会売店までお越しください。



お問合せ先
登別市共同募金委員会（社協内）
TEL 88-0860 FAX 88-4546

きずな かわら版

ふれあいフェスティバル2017
のぼりべつを開催しました！

9月10日(日)しんた21を会場に、すべての市民が地域社会の一員として共に楽しみ、笑い、語り合い、ふれあいながらきずなの輪を広げ、福祉豊かなまちづくりの実現を願って、57団体のご協力のもと「ふれあいフェスティバル2017のぼりべつ」を開催しました！

メインステージでは太鼓演奏や手話歌の発表、豪華景品の当たる抽選会などが行われ、大いに盛り上がりを見せました。また、地域活動に貢献している85歳以上の方へ贈られる「高齢者いきいきライフ表彰」も行われ、今年度は4名の方が受賞されました。館内では、様々なボランティア団体さんの体験ブースや福祉活動パネル展などが設置され、大人から子どもまで楽しんで福祉にふれあうことができる機会となりました。屋外では、実行委員さん達が腕をふるい、焼き鳥や閻魔焼きそばをはじめ、ジンギスカン、ラーメンなどが販売され、長蛇の列ができていました。子ども縁日などの楽しい屋台も開かれ、1千200名を超える来場者でにぎわう1日となりました。



社協寄付金 (平成29年8月1日～9月30日)

(敬称略/単位:円)

| 受領年月日 | 寄付者名 | 寄付の目的 | 寄付金額 |
|-----------|------------------------------|--|---------|
| H29.08.08 | (株)ほっこうハウス | 当社 代表取締役社長 石坂嘉朗様の葬儀に際し社会福祉のために | 100,000 |
| H29.08.08 | 石坂 絵理子 | 夫 石坂嘉朗(登別室蘭青年会議所元理事長)様の葬儀に際し社会福祉のために | 100,000 |
| H29.08.09 | 社会福祉法人 登別市社会福祉協議会 | 愛の小箱(社協事務所窓口) | 15,601 |
| H29.08.10 | いずみ亭 | 愛の小箱 | 21,401 |
| H29.08.30 | マックスバリュ北海道株式会社 マックスバリュ登別店 | 黄色いレシートキャンペーンで集まった社協配分を本会へ寄付 | 44,900 |
| H29.09.17 | 鷺別エリア歌謡交流会実行委員会 | 「チャリティチャレンジ歌謡交流会」の益金の一部を社会福祉のために | 10,000 |
| H29.09.20 | 匿名 | 社会福祉のために | 2,000 |
| H29.09.21 | トヨタカローラ苫小牧株式会社 | トヨタカローラ苫小牧株式会社登別店で行ったイベントの益金を社会福祉のために | 16,600 |
| H29.09.22 | 鷺別海岸イベント実行委員会 | 鷺別海岸海洋浴ウォーキングまつり中止によるイベント繰越金を社会福祉のために | 12,365 |
| H29.09.27 | 高橋 政幸 | ふれあいフェスティバルの地域活動支援センター作品展示において陶芸作品の売上を社会福祉のために | 1,600 |
| H29.09.27 | 竹内 敏彦 | ふれあいフェスティバルの地域活動支援センター作品展示において陶芸作品の売上を社会福祉のために | 900 |
| H29.09.27 | のぼりべつクマ牧場 | 愛の小箱 | 11,371 |
| H29.09.28 | 石坂 光汰朗 | 社会福祉のために | 2,554 |

社協寄付物品 (平成29年8月1日～9月30日)

(敬称略)

| 受領年月日 | 寄付者名 | 寄付品名 |
|-----------|------------|-------------------------|
| H29.09.13 | 登別ライオンズクラブ | 会員等で収集した古切手2万枚を社会福祉のために |

町内会に加入しましょう

町内会ではみなさんの暮らしをより良いものにするため、次のような様々な取り組みを行っています。

① 市内の情報提供

発行される広報物等を、町内会を通じて
回覧・配布しています。

② 誰もが安心して暮らせる地域づくり

防犯灯の設置および維持管理や災害に備えた防災活動、地域の民生委員・児童委員と連携し高齢者や障がい者への見守りや支援を行っています。

③ 清潔で快適なまちづくり

ごみステーションの管理や花壇づくり、道路の清掃、資源回収活動を行っています。

④ 会員相互の親睦交流

地域のお祭りや敬老会、健康教室等を開催しています。また、子ども会を組織し、青少年の健全育成にも努めています。

⑤ 地域課題への対応

地域や町内会の生活課題について、行政や関係機関と連携し、課題解決に努めています。

その他、各町内会によって様々な活動が行われています。町内会活動を継続するためにはみなさんの力が必要です。加入方法など、お気軽にご相談ください！

登別市連合町内会

事務局 84-11079

登別市中央町6-11

登別市役所

市民協働グループ内



一人暮らし高齢者などの見守り活動も行っています

まちなのまちびと

このコーナーでは、地域で精力的に活動されている方のきずな活動に対する想いや、これらの活動の展望などをお伝えします。

今回は登別市連合町内会会長の、中川信市さんにお話を聞きました。

「登別が好きだと思えるように」

登別市連合町内会会長

中川 信市さん



現在、登別市内には95の町内会があります。町内会では、お祭りや敬老会などの行事をはじめとした様々な活動を通じて、地域の福祉を支えています。連合町内会としてもきずな安心キットを用いての地域の見守り活動である「小地域ネットワーク活動」や、障がい者理解のための「あいサポート運動」などを全市的に広げているところです。

しかし、町内会ごとに地域の現状や雰囲気、これまで積み重ねてきた歴史があり、全市民的に提案する福祉の形以上のものを、各町内会でそれぞれに考え行っている実情もあることから、町内会すべてで同じ活動をするよう押し付けるだけはいけないとも思っています。大切なことは、登別に暮らす住民のみならず

「まちびとには、登別のまちの人、問題とひとをマッチングさせる人、布の長さを補うまちのように地域を補う人という意味が込められています」

自分が「自分の町が好きだ」と思えることだと考えます。自分の町を好きになることは、自分の地域へ関心を持つ第一歩です。現在、若い世代の方々はじめ町内会の加入促進に力を入れており、みなさんに自分の地域や福祉に目を向けてほしいと願っています。特に若い世代へと引き継いでいくことは、私たちの責務でもあります。

日頃の活動の中で私が心がけていることは、「ふれあい」と「声かけ」です。誰かと関わりふれあうことで、人は幸福を感じられると思います。地域で住民を見かけた時には、積極的に挨拶をし声をかけるようにしており、また、多世代のふれあいの場をつくるため、中学校の生徒たちと住民とで自分の町について考える機会を設けています。

どれだけ良い福祉の形を創り上げても、実際にを行うためには地域住民の力が必要です。観光だけではなく、福祉の充実した登別市として胸を張れるよう、今後も住民や社協、行政が連携し合いながら福祉活動を進めていくことが重要だと考えています。

きずなで紡ぐ

「小地域ネットワーク」

平成24年11月に発生した暴風雪による大規模停電を教訓に、町内会、民生委員・児童委員、市、社協の4者合意で推進している「小地域ネットワーク活動」が、着実に広まりを見せています。

これまで67町内会で取り組まれており、きずな安心キットが2千770個、きずなづくり台帳が4千861枚配布されています。

■キットをきっかけに見守りを

この活動は、町内会を主体とした「きずなづくり台帳」と「きずな安心キット」の配布を通じた地域の見守り体制やつながりづくりの強化を目的としています。

これまで地域で行われてきた見守り活動では、「ただ見守りのために訪問することには抵抗がある」といった声が聞かれていましたが、キットを配布するとうきつかけにより、その抵抗感を軽くするメリットがあります。

きずなづくり台帳に記入された情報は、地域で行われている支えあい活動に活用され、また、市が作成する「避難行動要支援者名簿」に登録されます。（登録には本人の同意が必要です）避

難行動要支援者名簿は、町内会や民生委員・児童委員に配布されます。

■市内ではこんな事例も

キットは、必要事項を記入した台帳の中に入れて冷蔵庫等に保管し、自宅で助けを必要とする際に支援者がキットを確認することで、迅速な対応を行うものです。

市内においても、家屋内で倒れていたひとり暮らし高齢者がキットを備えていたことで、福祉委員さんが対応し、かかりつけの病院に迅速に搬送することができたという事例もありました。遠くに住んでいる親族にもすぐに連絡を取ることができました。

■地域で暮らす誰かをを守るために

今後も登別市社協では、各関係機関等と連携を図りながら、全市展開に向け活動を推進していきます。日頃の見守り活動にお困りの町内会や、活動にご興味のある方は、個別の説明会を実施することもできますので、地域福祉課（88-10860）までご連絡ください！



もしもの時に安心！



鍵預かりサービス事業

連絡が取れない、新聞が溜まっている、夜でも灯りがつかない等近くにお住まいの方が心配な場合、自宅に鍵が掛かっているのは安否確認ができません。鍵預かりサービス事業では、孤独死などの不幸な結果を予防することを目的に、様子がおかしいと思われる時、事前にお預かりした鍵を使って家屋内に入り安否を確認することができる仕組みです。

突然の病気やケガにより家屋内で動けなくなった場合、地域の事業協力員が鍵を取りに行き、警察官や救急隊員等の立ち合いのもと安否確認を行います。この事業は、「75歳以上のひとり暮らし高齢者」や「認知症や障がいなどによって必要性を感じる方」などが対象となり、事業協力員や市内協力福祉施設が連携して見守り等を実施しています。

今年度は、登別小学校区と若草小学校区にお住まいの方が登録可能です。費用は無料ですので、詳しくは地域福祉課（88-10860）までお問合せください。

■市内協力福祉施設

- ・特定医療法人社団千寿会
- ・小規模多機能型居宅介護事業所みずばしよ
- ・社会福祉法人友愛会
- ・特別養護老人ホームわかかさ

■市内事業協力員（校区きずな推進委員や町内会役員、民生委員・児童委員等）

- ・登別小学校区 49名
 - ・若草小学校区 20名
- ※平成29年10月1日現在

「鍵預かり事業」(イメージ図)

